

平成 21 年 5 月 25 日現在

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2005～2008

課題番号：17520243

研究課題名（和文）

中国民間演劇の再興—浙江省を中心として

研究課題名（英文）

The revival of folk dramas in China—with a focus on province Zhejiang

研究代表者

磯部祐子 (ISOBE YUKO)

富山大学・人文学部・教授

研究者番号：00161696

研究成果の概要：本研究は、かつて村落民の中心的役割を果たした社廟演劇が、文化大革命（四旧打破）・改革開放を経てどのように変容したか、そして今日の急激な民間演劇の再興は地域文化において、また、文学史においていかなる意味を持つのかを、浙江省の民間演劇再興の実態と背景（上演環境）の考察を通して明らかにした。また演劇（演芸）再興の調査によって、民間における文芸の動向、宗教観、人生観、娯楽観を分析した。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	1,100,000	0	1,100,000
2006年度	900,000	0	900,000
2007年度	700,000	210,000	910,000
2008年度	700,000	210,000	910,000
年度			
総計	3,400,000	420,000	3,820,000

研究分野：文学

科研費の分科・細目：文学・各国文学

キーワード：中国文学 民間演劇 浙江省 宝巻 改革開放 再興 鸚歌班

1. 研究開始当初の背景

本研究開始時の21世紀初頭の中国社会は、改革開放の試行錯誤の時代から安定期に入り、人々の生活を取り巻く文化環境にも文化大革命・改革開放以前のもので再興し始めた時であった。民間における宗教活動及びそれに深く関わる演劇（以下、「演劇」と単独で記した場合は、中国語の「戯曲」と「演芸」を含む）活動も再び盛んになってきた時期であった。

しかし、これら民間の活動は、文化大革命（四旧打破）の影響があつてか、2000年の前半においては、政府からはまだ肯定されず、地方の文化局においても詳しい調査はなされていなかった。また、演じる側も、自らの活動を「迷信活動」と否定的に捉え、必ずしも肯定しているとはいえない状況に置かれていた。

民間の演劇活動に対する見方はこのようではあったが、この復興の時期こそ、民間演

劇本来の姿、上演の背景などを見て取れ、中国演劇の地域文化における意味および文学史における意味を明確にできるのではないかと、と考えるに至った。

2. 研究の目的

本研究は、かつて、宗族を中心とした祭祀演劇、および村落民の中心的役割を果たした社廟演劇が、文化大革命（四旧打破）・改革開放を経てどのように変容したか、そして今日の急激な民間演劇の再興は地域文化において、また文学史において、いかなる意味を持つのかを、浙江省の民間演劇再興の実態と背景（上演環境）の考察を通して明らかにすることを目的とした。具体的には以下のようなものである。

- (1) 浙江における豫劇・越劇、及び蓮花落、鸚歌班、宣卷の変遷史を明らかにする。
- (2) 近年の上演実態の調査と分析により、演劇の地域文化における役割を明確にする（紹興（余姚）・慈溪・浙東などにおける民間戯班の活動に関する現地調査、及び各地の文化局の民間戯班活動の把握状況を通して行政の役割も調査する。）。
- (3) 民間戯班の年間の上演状況（神誕演劇、寿誕演劇、還願演劇を中心に）、上演目的、上演内容、上演性格などを調査する。
- (4) 劇台本、吉利話（開演前の寿ぎの詞）の、旧本と上演の場でのテキストの比較・分析を行う。また、それを通じて、民間演劇再興の今日的意味を知る。
- (5) 上演と祭祀との関係における今日的意味を知る。
- (6) 中国政府の民間演劇政策と、それらの民間演劇への影響について考察する。

3. 研究の方法

研究は、(1) 文献調査分析と現地調査の両面

から行い、現地調査は、主に、紹興を中心として、民間の「戯班（演劇グループ）」に同行し、毎年1度ないし2度行った。

また、(2)「戯班（演劇グループ）」の上演環境と上演内容の変遷、上演地域による相違、祭祀目的の相違による上演の相違などを見るために、調査時期を秋と春に分ける、或いは調査地域を別のエリアにする、などの工夫を行った。

(3) その際に記録の録画を行い、帰国後のテープ起こしによって、吉利話や作品内容の分析を行った。

一方、(4) 近年出版された各地の地方劇資料・宝巻資料などの入手により、浙江省以外の地域の作品との比較をも行った。

4. 研究成果

(1) 17年度は、浙江省の慈溪市周巷鎮・庵東鎮地区、紹興市靈芝鎮・阜阜鎮、新昌市、余姚市の調査を行い、民間演劇の上演実態について資料の収集に努めた。とりわけ灘簧の系統に属する鸚歌班の再興についての資料（電子資料を含む）を収集し、吉利話の分析、鸚歌班の演員・宋小青の上演状況の変遷に関する分析、及び灘簧系演劇再興の背景についての考察を行った。

その結果、再興の大きな要因として、①例えば、鸚歌班に関していえば、その音楽面の特徴が詩讚系であることによって、唱も白も観客の好みに自由自在に応じうること（この点は蓮花落や宝巻にも共通している）。②今日の再興には小規模な演劇グループによる上演可能な演目が多いこと。③演目そのものが人々の実生活に根ざしているものであること。④改革開放で経済的ゆとりの出た人々が陰寿戯の上演などによって「孝」の実践を行い、ある種のアイデンティティを再構築しようとしていること。また、⑤姚劇の調査か

らは、さまざまな地方劇の節回しや現代劇の積極的導入によって、演劇の再興を試みる現状をみたが、これも詩讚系演劇であることがさまざまな地方劇の節回しの導入を容易にしていることなどを指摘し得た。

また、⑥このような民間演劇の再興は、文化局などでは実態を掌握しておらず、むしろ否定的で、極めて民間レベルでの上演であることも明らかになった。

(2) 18年度は、昨年度の慈溪・紹興・余姚における調査報告を「浙江における灘簧系演劇の再興」(『富山大学人文学部紀要』45)として発表した。この論文は、紹興を中心として再興している灘簧系演劇の実態、再興の理由およびその今日的意味について考察したものである。

同時に、民間演劇のテキストを収集した中から「割麦龍図宝巻」「売花龍図宝巻」「売水龍図宝巻」を取り上げ、その電子化を行った。テキストに解説を加えて冊子とした。

また、浙江省嘉興・海寧・海塩・平湖を中心とした民間演劇の調査にも当たった。中でも、「平湖太保書」と言われる説書活動が中華人民共和国成立以前と同じ形式で行われていることを調査し得た。「太保」とはいわゆる「巫師」であるが、この地域では民間の説書芸人が「巫師」を兼務し、歴史の記載しながらに演じていた。この「平湖太保書」の上演実態と宗教的意味および上演の背景については、21年度に「平湖鉞子書芸人に見る中国民間芸能の今」(『富山大学人文学部紀要第51号』2009年8月(予定))として、その後の調査を加えて発表する。

この2年間の調査によって、同じ浙江省の中でも、省北部は説書系の民間演芸が今日の民間の宗教儀式と色濃く関わりながら再興しているのに対し、紹興一帯は宗教行事の中の再興とはいえ、灘簧系演劇が娯楽性を強

く保ちながら上演されていることが窺えた。この相違は、それぞれの地域がもつ伝統演劇の歴史的背景の相違と経済力の相違によって齎されたものといえる。

(3) 19年度は、昨年の調査結果を中国語で論文にまとめ発表し、主として中国側の研究者に実地調査の必要性和研究の必要性をもアピールした。同時に、紹興・馬山地区の喧巻を中心に民間演芸再興の調査を行った。具体的調査項目は、上演地域、上演時期、上演場所、演劇開催単位、演劇開催目的(特に祭祀対象の神について)などの上演環境と、上演演目、上演テキスト、「吉利話」等の上演内容である。

馬山を中心とした地域においては、今日なお多くの喧巻人の存在を確認しえたが、その喧巻は、曲調と担当者の役割分担などから「平巻」と「花巻」二分類できた。そのうち、「平巻」は、宗教的色彩に重きが置かれて、いわば本来の喧巻の姿をとどめているのに対し、「花巻」は主に越劇の影響を受けながら娯楽性を重視して演劇化したものとなっていた。また、そのテキストは、両者共に孝順を主としたものがほとんどであった。

中でも、テキスト全体が7言からなり月ごとに花に寄せて孝順や夫婦親昵、近隣融和などを説く「花名宝巻」が紹興一帯で広く行われていたが、これは民国時代に喧巻されていたテキスト、或いは金華などの地域に流伝されているテキストと大差なく、その調査によって時間的・地域的な流布の実体を明確にすることが出来た。

ほかに、「割麦龍図宝巻」「売花龍図宝巻」「売水龍図宝巻」のいわゆる包公物も広く行われているが、これは越劇などの地方劇の影響、当地の包公信仰との関わりと切り離しては考えられない。包公物の宝巻テキストを題材に、地方の民間の「曲芸」が他種地方劇の

影響をどのように受けていったかを考察した。

(4)20年度は、浙江省の紹興地区において、鸚歌班と宝巻の上演環境の調査を行った。鸚歌班の上演調査は、農村における「寿誕演劇」をその対象としたが、数年前に比し、上演規模（舞台の大きさ、観客数）が拡大していること、「吉利話」は内容上に変化はないものの、蓮花落の演者を登場させ、にぎやかでリズムカルな雰囲気醸成しているなど、類似した曲種を積極的に取り込み、観客のニーズに柔軟な対応を見せていることなどの、新たな変化を知り得た。

また、本調査が対象としている鸚歌班の演員である宋小青からの聞き取りによって、農村における「寿誕演劇」が年毎に盛んになっていることも明らかとなった。民間の「寿誕演劇」が盛んになっている背景には、経済的余裕のある人々が増加し、それら富裕層の「可視的な（人々が見て分かる）孝」の実践として、「演劇」を利用しているということを描き得る。一方、官側の「非物質文化遺産」保護の政策（2005年国務院「關於加強我國非物質文化遺產工作的意見」）も、鸚歌班や宝巻などの「民間演芸」の隆盛を促進している背景の一つであるといえよう。

以上のほか、紹興における宝巻の上演調査も継続して行ったが、その結果、民間において神々の誕生日を祝う際に、教化的色彩（孝などの家族倫理）の宝巻が喧じられる傾向が色濃くなっていることが明らかになった。紹興馬山の今日の宝巻上演状況を中心とした調査結果は、「中国の演芸と仏教」（『新アジア仏教史（中国編）』所収、佼成出版社、2009年出版予定）と題して報告する。

このような、改革開放後の民間での「演劇」の上演の調査は、民間における文芸活動全体の動向、宗教観、人生観、娯楽観を知ること

ができるのみならず、官の文化政策と民の文化活動の関係を知る上でも極めて有効な方法であると思われる。

なお、以上の一連の調査と中国で行った報告が、中国の「非物質文化遺産」保護の動きに連動し、いささかながらもその動きを促進したであろうこともまた研究の成果といえよう。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計11件）

①磯部祐子、「中国の演芸と仏教」、査読無、『新アジア仏教史（中国編）』、佼成出版社、2009（予定）

②磯部祐子、「地方戯曲的復興及其意義」、査読無、復旦大学中国古代文学研究中心編『中国文学研究』12輯所収、中国文聯出版社、P148～162、2008.9

③磯部祐子、「紹興灘簧系演劇的復興」、査読無、王建華主編『越文化与水環境研究』所収、人民出版社、P195～212、2008.6

④磯部祐子、「復活了的宣卷活動」、査読無、王建華主編『浙学、秋瑾、紹興師爺研究』所収、人民出版社、P316～322、2008.4.1

⑤磯部祐子、「紹興灘簧系戯劇的復興」、査読無、「BK21 高麗大学特別講演録」p7-p22、2007

⑥磯部祐子、「中国地方戯曲的復興」、査読無、上海社会科学院編「社会科学報 2007.9.13」「學術探討 現代視野的中国文学」、2007

⑦磯部祐子、「地方戯曲的復興及其意義」、査読無、復旦大学中国古代文学研究中心編「現代視野下的中國古代文學與文論國際討論會論文集」P104-113、2007

⑧磯部祐子、「水郷紹興民間戯曲演出現状初探」、査読無、「2007 越文化與水環境國際學術研討論會論文匯編」P195-204、2007

⑨磯部 祐子、「近年日本明清通俗小説研究
の一個側面」、査読無、ハルピン師範大学人
文学院・中国社会科学院文学研究所中国古代
小説研究中心編「第三届中国古代小説国際研
討会論文集」、p569-578、2006

⑩磯部 祐子、「浙江における灘簧系演劇の
再興」、査読無、富山大学人文学部紀要第 45
号 p 141-154、2006

⑪磯部 祐子、「中国民間演劇の現状—紹興
の蓮花落・鸚哥班・宝巻を中心として」、査読
有、高岡短期大学紀要、vol. 20、P221-234、
2005

〔学会発表〕（計 4 件）

①磯部祐子、中国地域文化与語言研究報告 I、
第一届中国地域文化与語言国際學術會議
（2007）、平成 19 年 11 月 30 日、韓国・韓陽
大学

②磯部祐子、紹興灘簧系戲劇的復興、韓国高
麗大学BK21 特別講演会、平成 19 年 11 月 29
日、韓国・高麗大学

③磯部祐子、地方戲曲の復興及其意義、現代
視野下的中国古代文学与文論国際研討会、平
成 19 年 8 月 18 日、上海・復旦大学

④磯部祐子、水郷紹興民間戲曲演出現狀初探、
2007 越文化与水環境国際學術研討会、平成
19 年 7 月 7 日、中国浙江省・紹興文理学院

〔図書〕（計 0 件）

〔産業財産権〕

○出願状況（計 0 件）

○取得状況（計 0 件）

〔その他〕

6. 研究組織

(1) 研究代表者

磯部 祐子 (ISOBE YUKO)

富山大学・人文学部・教授・00161696